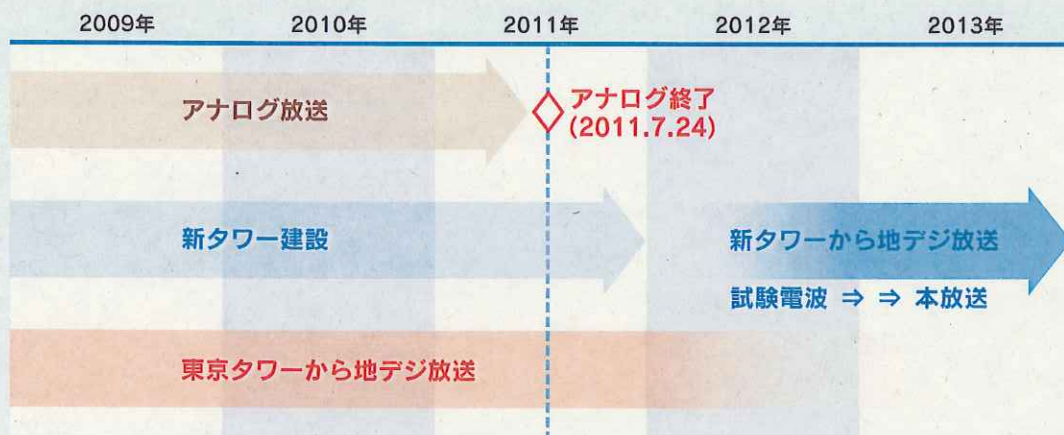


関委員提出資料

共同受信施設工事に関する皆様へ

共同受信施設の地デジ改修等は、アナログTV放送が終了する 2011年7月までにお願ひします!

- ◆ 新タワー（東京スカイツリー）からの地上デジタル放送は、2011年7月のアナログ放送終了・地上デジタル放送への完全移行から少なくとも1年以上の期間の後に開始する予定です。
- ◆ また、新タワーへの移転に際し、地上デジタル放送の受信アンテナ方向調整は基本的に不要と想定しています。
- ◆ このため、アナログ放送が終了する2011年7月までに、皆様方により共同受信施設の地デジ改修等をお願いいたします。



新タワー移転による受信アンテナの方向調整について

新タワー（東京スカイツリー）に移転して地上デジタル放送の送信場所が変わりますが、都心部では放送電波が十分に強く、また遠方では受信アンテナの向きは変わらないため、現タワー（東京タワー）の電波を受信して地上デジタル放送を視聴されているご家庭・施設では、新タワーからの地上デジタル放送をそのまま受信できる見込みです。なお、仮に新タワー移転により受信不良となった場合は、デマンドを基本に放送事業者が適切に対応する予定です。

関東地域イメージ図

遠方地区
(受信アンテナ方向変化なし)

都心部
(放送電波が強く
アンテナ調整不要)

東京スカイツリー
(墨田区)

遠方地区
(受信アンテナ方向変化なし)

東京タワー
(港区)

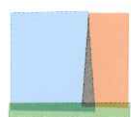
日本放送協会
株式会社 テレビ朝日
株式会社 テレビ東京

日本テレビ放送網株式会社
株式会社 東京放送
株式会社 フジテレビジョン

やさしい未来が、ここからはじまる。



業平橋押上地区開発事業のご案内



やさしい未来が、ここからはじまる。

Rising East
project

Rising East

やさしい未来が、ここからはじまる。





日出ずる東の空に、タワーが立ち上がる時、その足元に、やさしさにあふれた未来のコミュニティが生まれます。

江戸・東京の文化を、ものづくりから支えてきた職人の精神と、たいせつに守りつづけてきた下町の情緒。

この街に息づく文化を受け継いだ、新しい時代のコミュニティは、ものを生み出す人々を惹きつける刺激に満ちています。

住まう人に、訪れる人に、そして地球にもやさしいまちづくりが、これからの地域社会の理想を、世界に示す場所になります。

※Eastは、東京の東、日本の東、世界の東を表します。

開発ビジョン



3つの顔を持つ、新しい日本を代表する拠点へ

世界一のタワーをシンボルに、ものづくりの伝統と放送通信メディアとの連携による「都市文化創造発信拠点」として。周辺や沿線の都市型生活者に、充実した生活インフラを提供し、環境に優しく、地域防災拠点としての機能をもつ、「都市型生活コミュニティ拠点」として。タワーのある街の集客力により、世界中からあらゆる世代の人々が訪れる「都市型観光の広域交流拠点」として。

開発コンセプト

アトリエ・コミュニティ

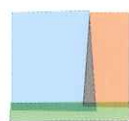
日本、下町のものづくりのDNAを継承し、人々の交流が、新たな都市文化を創造するコミュニティ。

やさしいコミュニティ

人に、地球に優しく、災害に強く、安全で安心して暮らせる、潤いと活気に満ちたコミュニティ。

開かれたコミュニティ

先端技術、メディアが集積し、新しい日本、新しい東京を、世界へと発信するタワーを核としたコミュニティ。



やさしい未来が、ここからはじまる。

Rising East
project

「Rising East project」のロゴマークについて

「ライジング・イースト・プロジェクト」のロゴマークには、いろいろな価値が出会い、重なりあっていくといった意味が込められています。

- あけぼの色：夜明けの光で色づく東の空の色。
- もえぎ色：生命を育む自然の色。
- そら色：タワーが貫く天空の色。隅田川の川面の色。

Project

歴史を受け継ぐ街にタワーが誕生します。
街が、人が輝く豊かなコミュニティを目指して
「タワーのある街づくり」を進めています。

墨田・台東両区は、江戸きっての盛り場であった「浅草」、屋敷町だった「本所」、そして景勝地でもあった「向島」など、「食」「風情」「職人のものづくり」といった江戸文化の継承地であり、東京発展の基礎を築いた地域です。この地に今、放送タワー東京スカイツリーが建設されることになりました。高さ世界一である、地上約610mのタワーをシンボルに、「タワーのある街」として新たなふれあいやにぎわいがつくり出されようとしています。新しい時代の「豊かなコミュニティ」の実現を目指して、私たちは開発を進めています。



○開発の経緯

- 2003年12月 在京放送事業者6社(NHK・民放キー局)が600m級の新タワーを求めて「在京6社新タワー推進プロジェクト」を発足。
- 2004年10月 「押上・業平橋駅周辺地区まちづくり協議会」を設立。
- 2004年12月 墨田区・地元関係者が東武鉄道に対し、新タワー誘致の協力要請。
- 2005年2月 東武鉄道として新タワー事業に取り組む事を放送事業者・墨田区に表明。
地元組織の「新タワー誘致推進協議会」が決起大会を開催。
- 2005年3月 放送事業者が墨田区押上地区を第1候補地に選定。
- 2005年3月 都市計画決定(土地区画整理事業区域・都市計画道路)。
- 2005年7月 墨田・台東両区の地元誘致組織が提携し、「墨田・台東新タワー誘致推進連絡会」を結成。
- 2005年12月 土地区画整理組合設立認可(事業認可)。
- 2006年3月 新タワー建設地として最終決定。
- 2006年5月 新タワー事業の事業主体となる「新東京タワー株式会社」を設立。
- 2006年6月 地元関係者が「新タワー建設推進協議会」を結成。
- 2006年7月 新タワーデザインの監修者を安藤忠雄氏・澄川喜一氏に決定。
- 2006年10月 新タワーを核とした複合開発事業のコンセプト「Rising East Project」を公表。
- 2006年11月 新タワーデザインの事業者案を公表。
- 2006年12月 環境影響評価調査計画書提出。
- 2007年8月 新タワーライティングデザイナーを戸恒浩人氏に決定。
- 2007年10月 新タワー名称案公募。
- 2007年11月 建設地周辺町会を中心とした「まちづくり連絡会」を結成。
- 2007年12月 放送事業者6社と新タワーの利用予約契約を締結。
- 2008年3月 都市計画決定(用途地域変更、地区計画等)。
- 2008年4-5月 新タワーネーミング全国投票期間
- 2008年5月 環境影響評価書提出。
- 2008年6月 環境影響評価事後調査計画書提出。
新タワーの名称が「東京スカイツリー」に決定。
東武タワースカイツリー株式会社に社名変更。

○開発スケジュール

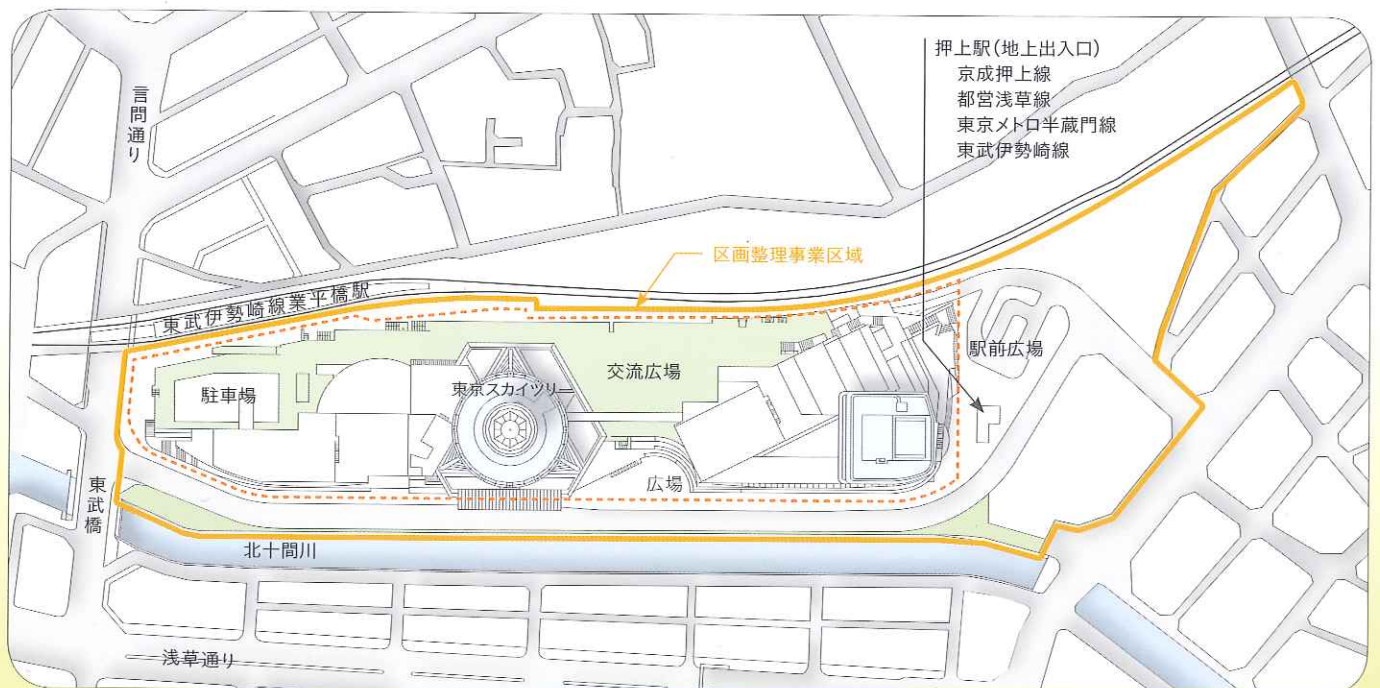
- 2006年度 基本設計
- 2007-08年度 実施設計
- 2008年7月 着工
- 2011年12月 竣工(予定)
- 2012年春 開業(予定)

○土地区画整理事業概要

- [名称] 押上・業平橋駅周辺土地区画整理事業
- [場所] 東京都墨田区押上一丁目の一部
および向島一丁目の一部
- [施行区域] 約6.43ha
- [施行者] 押上・業平橋駅周辺土地区画整理組合
- [組合業務包括委託先] UR都市機構
- [公共施設] 駅前広場(4,000m²)
駅前アクセス道路(幅員18m)
東西道路(幅員16m)、街区公園(1,930m²)
- [事業完了] 2011年度(予定)

○全体計画概要

- [所在地] 東京都墨田区押上一丁目
- [敷地面積] 約36,900m²
- [施設規模] 建築面積 約31,600m²
建物延床面積 約230,000m²(タワー部分含む)
建物規模 地上32階、地下3階
- [主要用途] 電波塔、展示場(展望台)、店舗、飲食店舗、ミュージアム、事務所、多目的ホール、各種学校、宿泊施設、地域冷暖房施設、駐車場

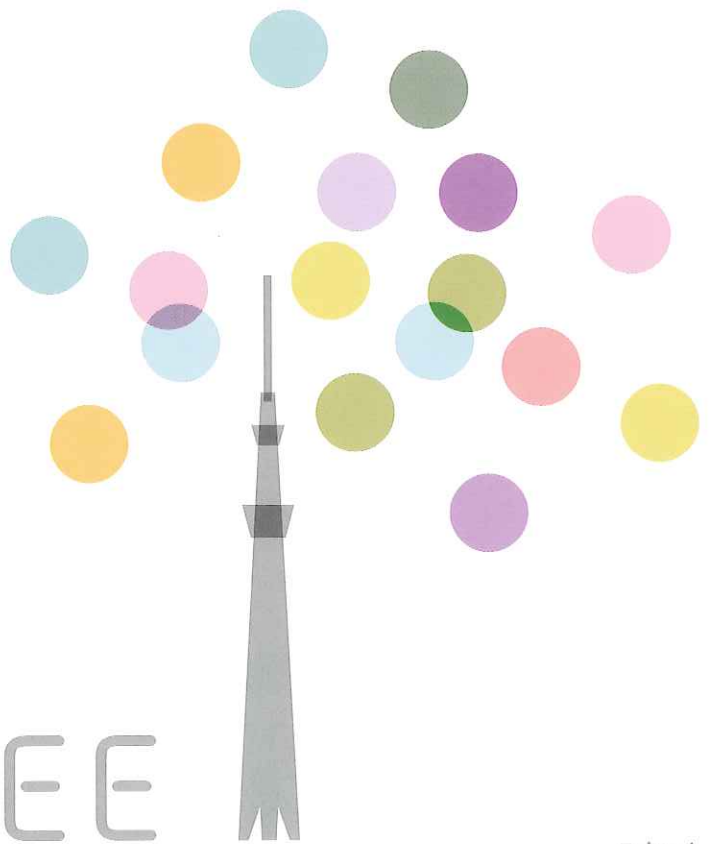


Tower

日本古来の技と最新技術に支えられた、
新しい街のシンボル・東京スカイツリー。
人々をやさしく見守ります。

東京スカイツリーは、空に向かって伸びる大きな木をイメージしています。シルエットは、伝統的日本建築などにみられる「そり」や「むくり」を意識し、大きな木の下に、人々が集い、心を寄せ合う様子を表しています。名前そのものから連想される澄んだ空と木々の豊かな緑も、「人に地球にやさしい、豊かなコミュニティ」を目指した、この街全体の開発コンセプトを表したもので、タワーの元に環境に優しい街が生まれ、世界の人々が集い、新しい文化が創造されていく、…という願いが込められています。タワーの足元は三角形となっており、圧迫感の低減や日影等の影響にも配慮しています。さらに、頂部に向けて円形へと変化し、見る角度や眺める場所によって多様な表情を持っています。

TOKYO SKY TREE



ロゴマーク

新しいタワーから生まれていく様々な「モノ」や「コト」、そこに集う人々のワクワクした気持ちをカラフルなドットで表現。いずれも日本の伝統色を用いており、タワーの立つこの地ならではの歴史と文化の意味がこめられています。タワーのシルエットと組み合わせられることで、空へと伸びる「木」に、葉が繁り、花が咲き、豊かに果実が実る様子がデザインされています。

- 常磐色(ときわいろ).....「伝統」
- 萌黄色(もえぎいろ).....「若さ」
- 刈安色(かりやすいろ).....「みんなの」
- 黄金色(こがねいろ).....「未来」
- 紅梅(こうばい).....「華やかさ」
- 江戸紫(えどむらさき).....「粋」
- 空色(そらいろ).....「エコロジー」

日本古来の技を最新の技術で再現。



日本独自の建築技術の代表とも言える五重塔は、心柱を中心として各層が独立した構造となっており、地震や強風時に、塔体各層との間に生じる相互作用により揺れを低減する役割があると考えられています。東京スカイツリーの構造システムはこの五重塔にみられる制振システムを最新の技術で再現しようとするものです。

通常より高いグレードの構造安全性。

建築基準法に定められた方法により構造計算を行って設計しており、安全性については国土交通大臣の認定を受けております。基礎は地下約35mの堅固な洪積砂礫層を支持層とし、強固な剛性と耐力を持つRC（鉄筋コンクリート）連続地中壁杭を採用します。

東京スカイツリー本体の主構造は鉄骨造です。主要な鉄骨部には標準的な鉄骨の強度よりも約2倍強いものを使用し、また、揺れを抑制する装置を配置したことなどにより、通常の超高層建築物の設計では想定しない地震や暴風に対しても安全性を確認しています。

東京スカイツリー概要

[タワーの高さ] 約610m

[施設の内容] 展望施設

第1展望台(レストラン、ショップ等)

第2展望台

放送施設等

[事業主体] 東武タワー スカイツリー株式会社

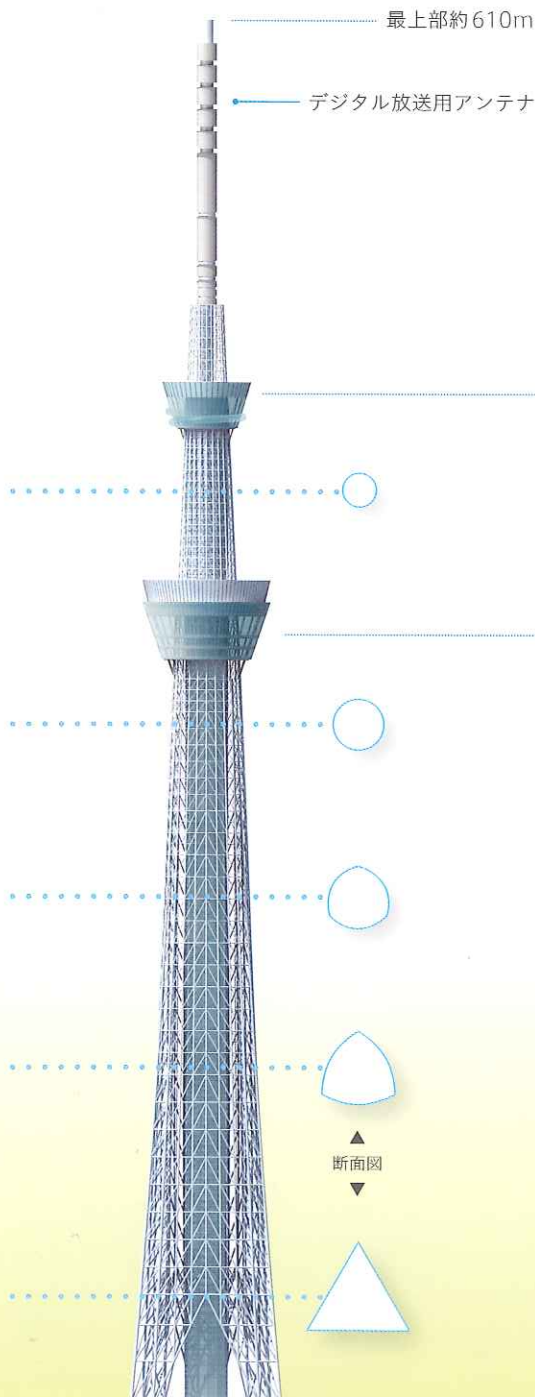
[基本設計/実施設計]

株式会社 日建設計

[施工] 株式会社 大林組

[ライティングデザイナー]

戸恒浩人氏(シリウスライティングオフィス代表)



第2展望台 450m

●展望台 ●空中回廊

高さ450mの展望台からは、関東一円を見渡す広大なビューが楽しめます。ガラスで覆われた空中回廊では、まるで空中を散歩をしているような体験ができます。

第1展望台 350m

●展望台 ●レストラン・カフェ ●ショップ

開放感のあるメイン展望フロアに立つと、大パノラマが目の前に広がります。東京を見下ろす美しい景色を楽しむレストラン、気軽に立ち寄れるカフェやショップなどが用意されています。

地上デジタルテレビ放送とタワーの役割

関東地方の地上デジタル放送は2003年12月より放送が開始されております。東京スカイツリーの地上デジタル放送の送信高は現在の約2倍となりますので、年々増加する200m級超高層ビルの影響が低減できるとともに、2006年4月に開始された携帯端末向けのデジタル放送サービス「ワンセグ」のエリアの拡大も期待されているところです。また、災害時等の防災機能のタワーとしての役割も期待されています。なお、東京スカイツリーから送信される電波の強さについては、総務省の定める「電波防護指針」の基準値を遵守した安全で安心な電波となります。

Town

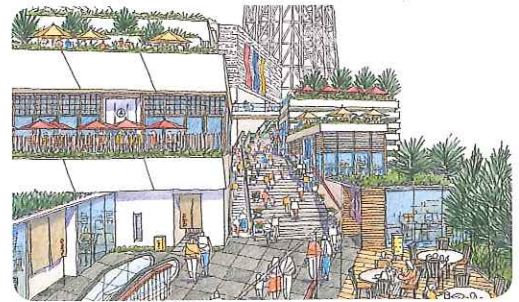
商業・文化・教育など様々な機能を備えた
 何度でも足を運びたくなる街。
 地域の誇りとなる街を目指します。

東京スカイツリーの足元には、押上駅と業平橋駅をつなぐ東西長さ約400m、広さ約3.69haにおよぶ『タワーのある街』が生まれます。施設4階レベルには押上駅からタワーロビーへと続く交流広場を、駅前や北十間川沿いには3つの広場や親水公園を配し、訪れる人々や近隣に住まう人々が集うコミュニティ空間を形成します。タワーから3km圏内エリアの人口はすでに約48万人★にのぼり、加えて墨田区の人口増加率は東京23区全体のそれを上回る数値を示しています★。商業、エンターテインメント、文化、オフィス施設、そして防災機能などを備えることで、周辺エリアと連携した賑わいのある街づくりや、さらなる地域活性化につなげます。

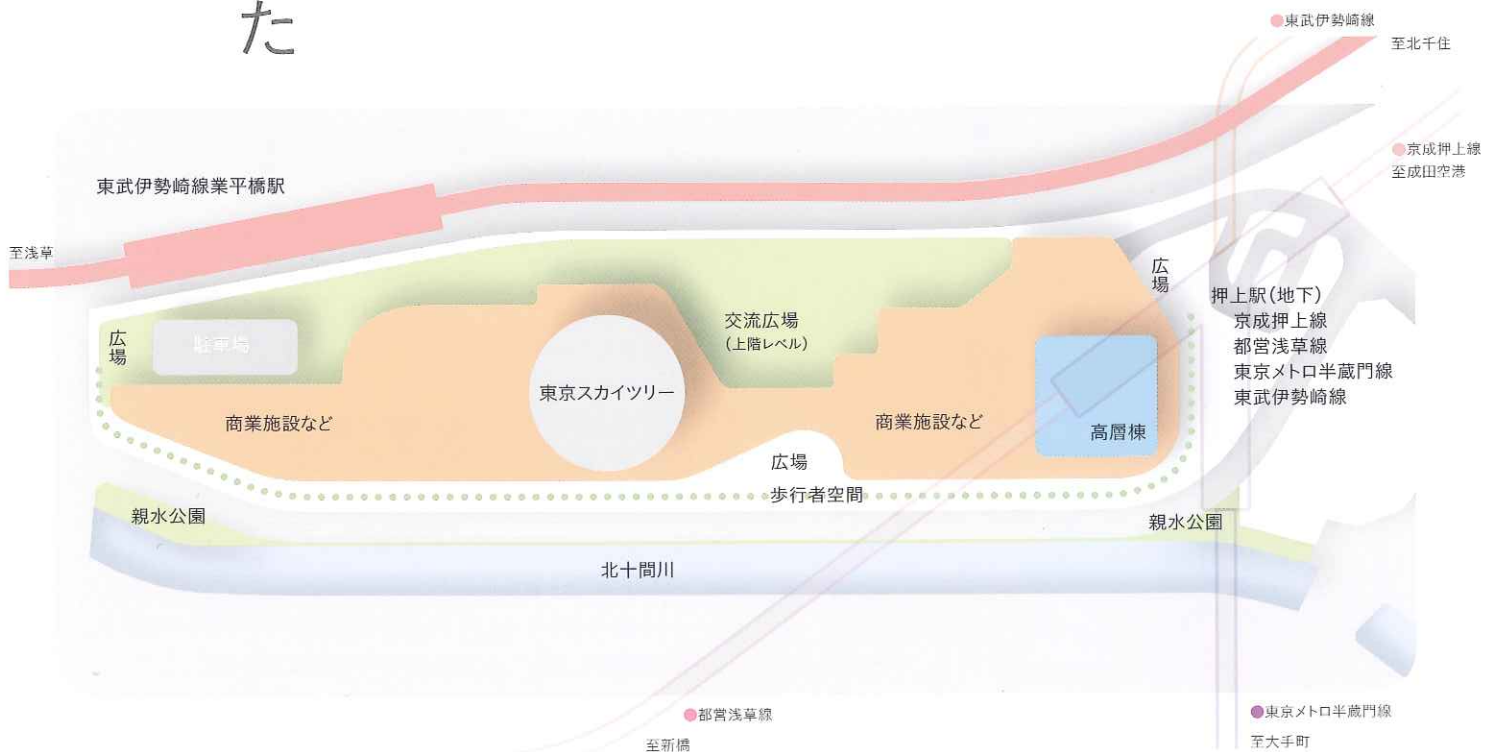
★ 2005年住民基本台帳による。



4F交流広場から東京スカイツリーをのぞむ(イメージ)



押上駅側から施設をのぞむ(イメージ)



新しい、独自の「下町らしいスタイル」を創発します。

均一化したライフスタイルの提案ではなく、下町の魅力と相乗効果を持つ機能を積極的に導入し、未来に向け、世界に新しいローカルの価値を発信する。そんなコミュニティ・ブランドを作り出すための出発点として、施設開発をすすめています。



商業



ミュージアム



宿泊施設



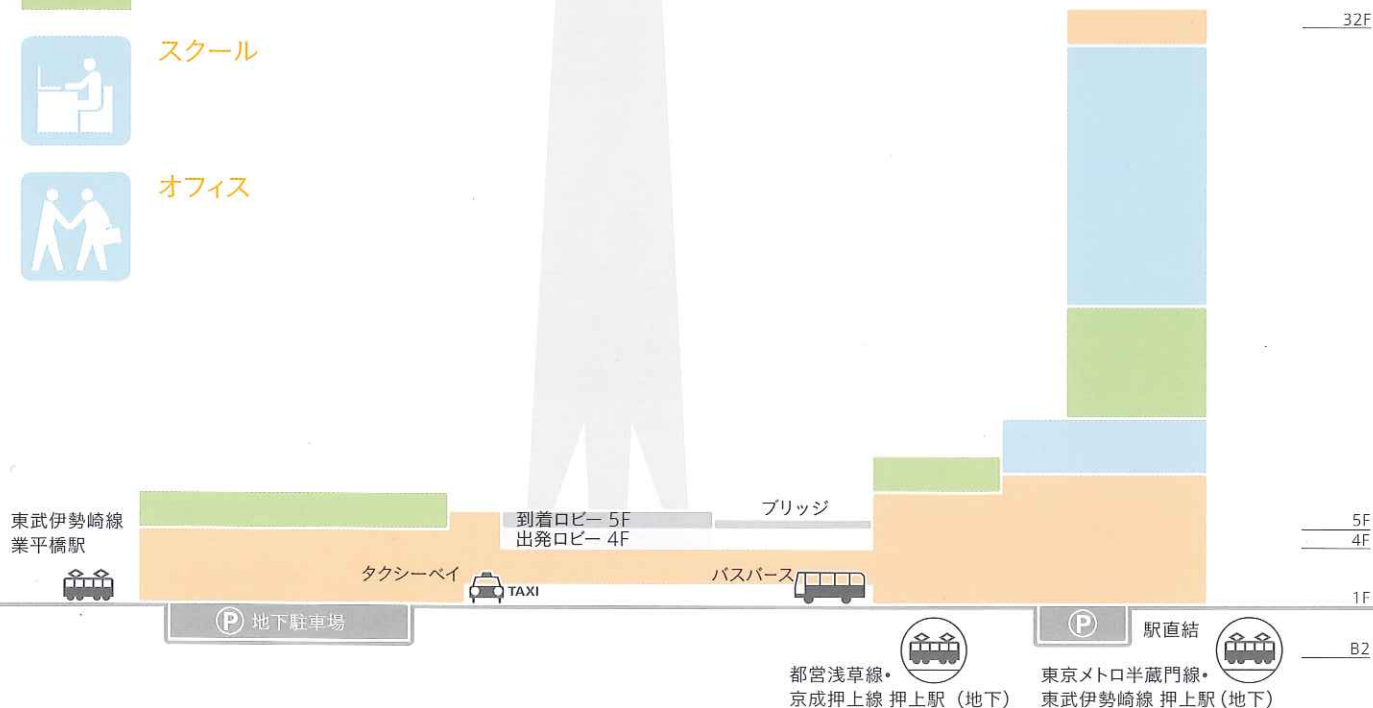
スクール



オフィス

○ 計画地施設概要

- [所在地] 東京都墨田区押上一丁目
- [敷地面積] 約 36,900m²
- [施設規模]
 - 建築面積 約 31,600m²
 - 建物延床面積 約 230,000m² (タワー部分含む)
 - 建物規模 地上 32階、地下 3階



世界の人々が行き交う、
日本の観光・生活の
新たな中心地。



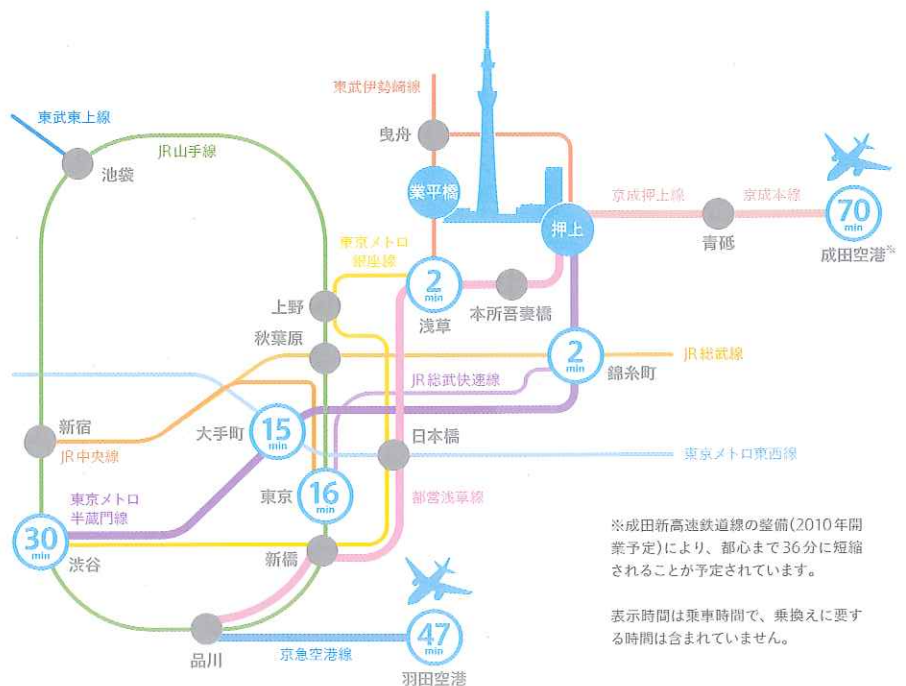
浅草から約1km、両国から約2km。東京スカイツリーは日本を代表する伝統的な国際観光ゾーンにあります。押上駅は、東武伊勢崎線・東京メトロ半蔵門線・京成押上線・都営地下鉄浅草線が乗り入れるターミナルであり、高水準の交通インフラを備えています。さらに、空の玄関口である羽田空港と成田空港を結ぶ好アクセスポイントに位置しています。

Location

ACCESS

2 駅 4 路線が利用可能、
空港への連絡もスムーズ

- 47 min** 羽田空港から (京急線・都営浅草線)
- 70 min** 成田空港から (京成押上線)*
- 15 min** 大手町から (東京メトロ半蔵門線)
- 2 min** 浅草から (東武伊勢崎線)
- 30 min** 渋谷から (東京メトロ半蔵門線)



*成田新高速鉄道線の整備(2010年開業予定)により、都心まで36分に短縮されることが予定されています。

表示時間は乗車時間で、乗換えに要する時間は含まれていません。



【浅草雷門】 A-1

金龍山浅草寺の山門で、浅草といえばここ。雷門は右側に風神、左側に雷神が配られています。続く仲見世には、日本情緒あふれるお土産が揃っています。



【両国国技館】 A-3

大相撲の興行のための施設で、本場所が行われていないときも、館内巡回ツアーや構内の売店を楽しむことができます。両国には相撲部屋やちゃんこ鍋屋など相撲に関係するものが多く、街を歩くと力士の姿を目にすることも。



【亀戸天神社】 C-2

菅原道真を祀り、学問の神様として親しまれている、通称亀戸天神・亀戸天満宮。古くは総本社にあたる太宰府天満宮に対して東の宰府として「東宰府天満宮」などと称されていました。春には藤の名所として有名。

【向島】 B-1
「三田神社」「弘福寺」「長命寺」などの寺社を擁し、料亭が軒を連ねる江戸の風情を色濃く残す地域です。「桜橋」周辺の河岸には桜が連なって植えられており、「墨堤の桜」として親しまれています。

【江戸東京博物館】 A-3
失われていく江戸・東京の歴史と文化に関わる資料を収集・保存・展示する博物館です。



東武鉄道株式会社

〒131-8522 東京都墨田区押上一丁目1番地2号

<http://www.tobu.co.jp/>

東武タワー スカイツリー株式会社

〒131-0045 東京都墨田区押上一丁目1番地2号

<http://www.tokyo-skytree.jp/>

<http://www.rising-east.jp/>



[2008年7月]

本冊子記載の内容は、全て現時点での想定に基づくものであり、今後の検討により変更することがあります。

© 2008 Rising East Project